

幸田

創刊所
愛知縣額田郡
幸田村公民館

訓刊の御挨拶

村長 足立章 逸部

春尤うらゝかな三河平野は我等の故郷である。私は嘗てパールパツク女史の書いた大地を讀んだことがあつた。我々農村人は土に強い憧れと執着を感じる。

今日シマウプ氏の税制勧告により村の財務に関する事項は従来より一層

広報発刊を御祝して

地方事務所長 伊藤行雄

終戦を契機に全く新しい性格を持つた。民主国家として再出発した我が国は、その基本理念として政治の主人は国民であるという。主権在民を宣言致しました。このことは民主政治の基礎は国民自らの手によつて築かなければならないと云うことであります。しかるに今日までの現状は、平和国家再建の慌だしい過渡期でもあり、矢張り早急に行われたい国民の要請が未だ十分にぞしや

複雑多岐にわたつたりつゝある。稍もすれば未梢的な存在をもつたものが今や自治制の確立により強力な裏づけを必要とするに至つた。一九五〇年この意義ある年に広報幸田発刊に至つたことは全く村民各位の民主政治の理解の證左として、御

く、がん味され自分のものとする余裕を満足に持たれなかつたのであります。こゝに広報と云ふ宣伝活動が必要となり、官公署が盛んにこれを取り入れて国民の理解と協力を得るために、進んでその基礎となるべき重要な資料と知識を提供して、国民の世論を行政の上に反映した「国民による、国民のための政治」を実現を期してあるのであります。今回「幸田広報」が産声を挙げられ

同慶に堪えない。私の立場は村民各位の眞の政治意図と実行に移す最良の機関でなければならぬ。政治家の政治は妙味がある。しかし眞実性を導ぶ点から考へると吾々農民たる感じがないわけでもない。

農村恐慌の到来を予言する人もある。しかし私はそれ故に生活と政治が今日ほど密接な連りをもつていると言へたであらうか。もう一度ふりかへてみたい。今日の政令が明日の台所にひびくのである。はからずも廿四年度最終議案に於て、村民各位の熱意の迸る御高見を拝聴し得たことは私の尤も光榮とするところであります。私の平素から念願してお

るのも、こつした民主行政の確立をねがう趣意からと存じましてお喜びにたえませんが、これに依つて更に自治の公開性と明朗性が一段と加わり、幸田村政の上に必ずや大なる収穫となることを信じて疑いません。惟つて戦後の異状な経済状態の結果農村は未だ昔つて経験しなかつた好況に恵まれ「農家ならぬは」と羨望されたのも束の間、食糧事情の好転を契機に、農産物価の漸落と共に税の重圧感益々強くなり、愈々主食偏重の農業形体に再検討を加え、国

りますことは村民各位の心を地として、名実共にそなわつた民主主義精神の眞理に妥協は遺憾なきを期することでありませぬ。この土地に住む者からこの土地の香りは永久に去ることはない。今の私はこの大地と共に睡をすえてかゝらねばならない時になつたことを自覚するのであります。過去三ヶ年の歩みは私にとつて祖国日本にとつて容易なものではありませぬ。今や私はベストをつくして有終の美を飾り度いと考へてあります。どうぞみなさん土にまみれた大きな手でしっかりと私を御援助下さらんことをお願い上げて発刊を祝し、将来の御助力を御願申上るものであります。

際の高度な総合経営への転換を余儀なくせらるゝに至り、又一面税制の画期的改革を始め諸制度現明が次ぎ／＼と改変されて、農村経営の上にも常に新情勢を把握した賢実な方途を見出さねばならぬ、誠に大切な機に當面してゐると思つてあります。幸田の消費は県政に及ぼす影響極めて大なるものがあります。希くはこゝの「幸田広報」が村民と通結して、その正しき声が広報を通じて村政に反映せられ、大幸田村発展のハイロツトとなつて地方自治振興の爲め活躍せられんことを御祈りして、発刊の御祝と致します。

祝幸田広報発刊

——わたくしの希望——

地方自治法は新憲法の精神によつて生れた民主自治の法律で住民の意志を尊重して、その住民のためにその住民が行うものである。即ち住民は自から選挙した代表者を通じて、自分達の目的を達することが出来、又公選により公職へついたものは一般の意志と公共の福祉に従つて政治を行う責任があるのであるが、一般の住民は利害関係の緊密なこの原則を自覚せず、公職者も進んでこの責任を遂行する意欲が、充分でない通常に遺憾に思つていたので、今回幸田広報を発刊することになり、住民は今後この広報を通じて、村の

発刊に寄せて

縣会議員 山本住次郎

至難と忠告の刺の道を約束付けられ乍ら新生日本が平和と文化国家の建設を世界に宣して、五年、辿りし跡を顧みれば猶私達の努力の足らざるを思ふ。新しい憲法が公布されても、たゞそれだけで平和文化国家が生れたわけではない。明るく日本は広く国民に行渡つた良識とそれに導かれた友愛、協力と精神と願ひ

幸田村議会議長 本多伴吉
政治がどのように行われているかを正しく認識すると共に自己の抱負、経論を述ぶる機会の出来たことは非常に意義のある企てである。と慶賀に堪へぬ次第であります。住民の皆様がこの広報を活用して、村治の堅実なる運営と地方文化の向上とに一段の協力をされんことを希望すると共に、編集当局の不断的努力により、本誌が村治の指針と住民の福祉増進のために活躍されんことを祈るものであります。

以上所感の一端を述べ発刊の御祝といたします。

汗する勤勉努力により、生活を高く築き上げて行こうとする決意と、たゞそれのみにより生れるが、教育の普及、経済の繁栄も政治のよしあしに依る影響が極めて大きい。私はその大切な政治を人任せでなく、皆で明るい立派なものにいたしたいと念願して止まない。

乾坤一転希望の春を迎え、時代の要

請にこたえ幸田村の発展繁栄を願ひつゝ、広報の発刊をみることは、時局に即した最も意義深いことと思ひ、満腔の祝意を表します。所感の一端を述べて祝辞といたします。



学 園
たより

健康教育に精進する中根校長

多年の経験と秀れた教育手腕をもつた中根校長は実験学校として施設されて以来、校内諸施設の完備、健康な児童の育成に最大の努力を注いだ。たえずこれが補佐に當つた山本教頭以下の努力も涙ぐましいものがある。氏のもつとも力説するところは、本村の事情に即した児童の実態調査を行い、これに対して保健衛生の最良の対策を施すことであつた。

氏は常に教育を援助する偉大な村民の力を感謝して、学校と家庭との緊密な連絡、又学校を中心とする、保健委員の適切な意旨を諒として、寧ろ白なき奮闘を続けたのである。

因みに同校保健力キキユラム委員会編纂になる「健康教育年間計画案」は健康教育に進む者の良き指針となることである。

「本校の現状」

萩谷小学校長

幸田広報の創刊を祝して本校の現状を述べる。

本校の歴史は古いが、十数年前廢校の悲運に遭遇し幸田小学校の分校として尙く存続したことが沿革史によつて窺われる。

本学区は特に交通の便がよいため、特に戦時中より各種工場の設置に伴い、俄かに人口の増加を見るに至り、随つて学童の数が急に増加した。

二十五年度、一年生は一躍七十七人を算するに至り、一、二、三年生は各二学級編成であり、他の学年はそれ／＼一学級で合計九学級となり、学童は合計三百五十余人となる。

それに伴つて校舎及び運動場の拡張を必要とするに至り、昨年度運動場の拡張は旧の二倍となり、本校の面目を一新した。校舎の増築は急務中の急務である。

楽しい学校の実現を目指して、P.T.A.の力強い推進力と学区民の協力を得て、児童の自主性を重視しより楽しい学園の経営に精進している。

おなかの中を たいじましよう

坂崎校

皆さんは柿の木や松の木の葉をかたつばしから食べている毛虫を見たことがあるでせう。

私たちのおなかにも寄生虫がいます。寄生虫は私たちの体内をすみかにして、私たちの食べるもの、栄養分を構どりする悪い虫です。三日三日に検便をした結果によりまずと、虫のいる人はしらべた人の約六割で、虫の種類と保有者数は次の通りです。

学年	検査人員	保有者	蛔虫	蟯虫	十二指腸虫	鞭毛虫	その他
1年	39	25	23	1	1	0	0
2年	42	28	24	1	1	0	0
3年	53	33	29	1	1	0	0
4年	37	22	21	1	0	0	0
5年	25	16	13	2	1	0	0
6年	36	15	12	1	1	0	0
計	232	139	122	5	2	0	0

の寄生虫のいる者が一人ありました。ではこれらの寄生虫はどうして私たちの体内に入ったのでせうか、十二指腸虫は口から入るばかりでなく、皮膚から体内に入りますが、大体は食物といつしよに口から入ります。又、手の指や水、寝具等の不潔なために指が口から入ることもあります。

これらの寄生虫をいつまでももっていますと、食物の栄養分を構どりされ、顔色が悪くなり、元気がおとろえ、特に十二指腸虫、東洋毛線線虫等貧血をおこし易く、又一たん病氣にかゝると寄生虫保有者は衰弱がはやく、とりかえしのつかぬことになりまますから、是非虫下しをいたしませう。

次に予防法や衛生につき、
1.食前、用便後、食物を調理する前には必ず手を洗いませう。
2.土いじりをしたら必ず手

- 3. 運動や作業の後は足を洗う。
- 4. 着物を清潔にする。
- 5. なるべく野菜をなまて食べる。

二月の学校べしよみ

- 一日 社会学級I裁判所前(便所、電話局見学(岡崎))
- 二日 教科書販売(書店出張)
- ツベルクリン注射
- 昭和二十五年入学児童検診
- 三日 学級ひなまつり
- 七日 定期種痘
- 卒業記念写真撮影
- 八日 B・C・G接種
- 九日 学校総合視察(教育課長)
- 十五日 貯金日
- 六年修学旅行(京都・奈良方面)
- 二十日 卒業式
- 二十日 春分の日(国旗掲揚)
- 二十五日 P・T・A総会
- 社会学級
- 三十四日 終業式
- 三十五日 本日より学年末休暇
- ▽備考 昭和二十五年入学式は四月一日
- 始業式は四月五日

べない
る。爪をかんだり、指の口の
中へ入れない
7. 便所を清潔にし、手ふきをよく洗濯する。
坂崎学校新聞より

幸中訪問記

高橋校長と一問一答
「大変立派な校舎がなつちま
しておめでとうございませう」
「これはお村のみなさんの
血と汗の結晶ですよ」
「今年の上級学校入学率は
？」
「藤井、谷川、小野、萩田」

加藤はじめ各教官はみんな真剣だつたよ」
「先生の最近生徒に特に強調しておられるのは」
「青少年の不良化防止です」
「どんな風にして防止しようとしておられますか」
「校内ではデインシステム、ホーム・ルームシステムにより、各自の自覚を持つて、未然に防止したいと思ひます。なお本校の教育委員会、児童福祉委員会、警備関係者の方々の御協力に感謝しております」
「職業科の御研究は継続されますか」
「勿論です。関係教官もはりきつてやつて下さいますから」
春の一日、プラタナスの木立を吹く風も暖かい。制服の少女の二人三人、赤いネクタイが目にしめる。
井野教頭の姿が忙しそうだ。

深溝社会云学級 成果着々挙る

深溝社会学級が県の認定を受けてより今日まで満二箇年を経過しました。この間講話を

聞くこと二一回、会費がどれだけ成長したか又どんな効果があるか第三者側から眺めて見よう。

1. 出席の良好なること
初回より今迄何時も二〇名以上の出席者があり少しも減らず新顔の増える一方であること。

2. 男子会員の出席のあること
何時の日にても十二三名の出席者がある。主婦の啓蒙により主人が試しに来られるわけらしい。

3. 時間が守れる
始めはいつも約一時間は遅れた会も、この頃では正時間開始、又深溝の他の団体からも『社会学級の正時間だ』と云われるまでになった。

4. 学校の会合に後を汚さない
この社会学級の生れない以前の学芸会など、後は何時もリヤカー一ぱいも喚い散らし紙屑などあつたものだが、この頃はこんな片付けの用もなくなつた。

5. 教育に関心が昂つた
給食の手伝いや、子供の用具を持つて学校へ来られても心ならず自分の子供の教室に立寄つて勉強振りを見ていかれる。

6. 婦人部落小会が開かれる
編物だとか産品更生とか時には代用食の作り方など、部落の講師で膝を突合せての講習会、又時には幻燈会で年寄や子供を喜ばせたり、或部落の子供供で海水浴に行かれるなど、こうなれば隣同走のいがみ合いもなくなるわけだ。

7. 意見発表が出来るようになった
始めは面白くても笑いをこらえ、悲しくても顔に出さず、女とは唯黙してゐると美徳の如くしておられたのが、近頃では何の遠慮もなく自分の思うことはどん／＼と質問されるなど総べての会が和やかに、そして活潑になつた。

8. 学区婦人の融和が出来た
深溝学区は四区ある。意見の交換で自然と融和が出来たようだ。

9. 指導者の養成が出来た
幹部九名以下三十名の役員が指導者としての苦心と体験を得られた。

10. 社会事業が出来るようになつた
敬老会追弔会未亡人未復員家族慰安貧困者の世話等着々実行に移されている。

最後に社会学級で、毎月新聞を出して修養されているのも珍らしいことだ。



学務課

らしめるために祝日の趣旨を徹底させる運動を起しこの運動が全県下にあまねくひろがり、国民の健全な思想の振興の一助となるよう念願するものであります。

この意味に於いて祝日には心ならず国民が挙げて国旗を掲揚するよう村民各位の盛大なる御協力をお願いします。次第で御座います。

国民の日

元日 一月二日
成人の日 一月十五日
春分の日 三月二十一日
天皇誕生日 四月二十九日
憲法記念日 五月三日
こどもの日 五月五日
秋分の日 九月二十三日
文化の日 十月三日
勤労感謝の日 十月二十三日

就学記事

昭和二十五年四月一日就学の始期に達するもの下の通り
但し昭和十八年四月二日

より昭和十九年四月一日までの方である。
万一届けもれの方は至急御届け願います。
昭和二十五年度学令男女数

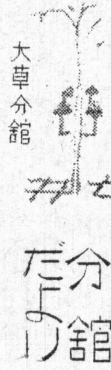
委託児童	深溝学区					荻谷学区					幸田学区					坂崎学区		支所名
大沢	逆川	市場	海谷	里	幸田	荻谷	荻	榎落	岩堀	鷲田	新田	北鷲田	高力	大草	坂崎	久保田	長嶺	男
2	2	11	5	11	21	13	16	2	21	10	1	1	9	15	14	4	2	7
0	2	10	4	15	16	10	6	0	25	16	3	1	7	22	10	5	7	9
2	4	21	9	26	37	23	22	2	46	26	4	2	16	37	24	9	9	計
6	5	6			8	2			1	3	3				4	2		総計

社会教育の重要性

学務課 社会教育係

昭和二十五年は「社会教育」の為の年であると申しても過言ではないでしょう。昨年六月社会教育法が制定せられて以来、こゝに半歳余、あらゆる意味で社会教育は確固たる軌道に乗つて進みつゝあります。従来、学校教育に偏つていた我國の教育は、この法の公布により初めて、広い社会的視野を持つこととなりました。さりながらこれはあくまでも文化的立法であり、国民各自が高度の文化生活を営まなければ、所期の目的を達することは出来ません。まだ、道達しの感は深いのであります。社会教育の場は広汎であります。従つて現表面における不安もなかなが多いのです。まず国家財政、地方自治財政の貧困からさまゝの困難な問題が生じます。次で敗戦に伴う道義の頹廃、世相の混乱はいまなお黙過しえない現状にあつて、数多くの課題をわれ／＼の前に提供してあります。こうした時期に必然の動きとして、社会の切実な要請に基づいて社会教育の固期的振興が強調せられ、その方策も種々議せられて来ました。しかし過去における社会教育の足ど

りを顧りみずと、更に振興の方途を樹立して一般大衆の心隨にまで浸透する成果を期して、万全の努力が傾注されなければならぬことを痛感いたします。このような顕著な世論の動きと、現実の必要性に鑑み、多大の予算を計上されましたことを、衷心より感謝いたします。この上は最も能率的、合理的な運営を工夫研究して、重大使命の達成に一段の努力を捧げる覚悟でございます。何卒、厳しい嚴父の御批判と温かい慈母の御指導を賜りますようお願い致しております。



昭和二十三年七月一日、大草高力の人々の発意によつて大草公民館は生れました。三百六十戸、二千八人のために開放された文化施設であります。本年一月、幸田村公民館大草分館となるまでどんな歩みをたどつて来たか、昭和二十四年満一ヶ月の概況を記してみませう。

「青年の集い」「婦人の集い」「幻燈の会」「茶道の生花の会」「和歌・能句の集い」「教養講座」「産業講座」「理髪の日」「政治をきく会」「保健衛生講座」「料理の会」「映画会」「季節問題研究会」「役員会」「読書の会」等であり、次に二十四年度公民館の利用状況を記してみませう。

月	利用日数	利用者数
一月	二四日	八三五人
二月	一八日	三三三七
三月	二四日	一、八六五
四月	一七日	二〇八八
五月	一七日	一、三〇六
六月	一八日	八八六
七月	二二日	五二八
八月	二二日	二六六六
九月	一四日	六〇八
十月	二一日	三、四七六
十一月	一七日	一、〇一三
十二月	一六日	一、九二一

合計 利用日数 二、三〇日
延日数 三〇五日
利用者数 二〇、四四九名

創刊号の一隅をかきりて

幸田村婦人会長 足立しゆく

去る二月十日を以て婦人会の事業として古織維と古硝子の回収を致しました。前には全員の皆様方の絶大なる御協力と役員諸師の熱心なる御活動のもとに、非常な成績を挙げ事が出来得ました事を厚く御礼申上ります。然るに郡並に役場当局の涙ぐましいまでのお骨折にもかかわらず、先方受入方の集荷の手違いから当日集荷現金受取の子定でありましたが延引致し、品物預り方をお願い致しました各叔同組合の皆様には誠に申訳のない迷惑と御心配をおかけ致しました事を責任を以てお詫申上ります。この事業は最悪の時期でありました為受入方にも随分痛い処が有りましたので同僚せられますが、予定通りに万争都合よく埋れて居る座品から五万円近い現金が得られました。五万計りと一口に笑えばそれまで、すが、落着ては居ません。其辺を諒とせられ会費並に叔同組合の皆様、役員諸師のおゆるしの程をこの創刊号の一隅を拜借致します。お願いする次第であります。

農協レポート

みなさまに御願ひ

指導農場

研究農場発足以来三年の年を過ぎこの間村民の皆様方に大変な御世話になりましたことを厚く御礼申し上げます。何分今迄は何やかにかの手續いて御迷惑をおかけ致しましたことを深く御詫言致します。今年は設備人員共にやゝ充實致しましたので、村の皆様の御期待に沿う様採種に研究に努力致しますれば、今後其御利用下さいませようお願い致します。

尚本年の麦類の研究は左の通りであります。御来場

の上実物を見て御注文下さいたい。

- 1. 品種試験
大麦一橋細・合風二号、
魁・旗原
- 2. 裸麦一赤神力・白梅、一
早生
- 3. 小麦一農林九号・農林三
十号、さつき(農
林四十九号・農林
六十四号(自坊主))
以上

二. 種子消毒
無処理・セレン・ウズブル
ル・ウ・ス・フル風自湯浸法
三. 肥料試験
尿素・硫酸・石灰窒素・固
形肥料・配合・過石軍用等
尚農家の皆様の声を聞き度
く御遠慮なく御通告下さい
ますようお願い致します。

おらが「車輪」のことも

坂崎醸造工業株式会社(轟焼酎製造)だより

坂崎醸造同組合より、焼酎製造を目的として分離独立した坂崎醸造工業株式会社は純然たる農村資本と農村労力と優秀なる技術とを以てその業務は軌道に乗りつ

後は品質の良に於て、メチール・アルモノート・フェル油等不稔物の全々ない全国でも最優秀の酒精が出来ると予定である。改装後の能力は左記の通りで、特に原料芋は年間参拾万圓前後を必要とするから村内の甘藷作は今後益々増産並に品質の改良に意を注がれたい。

狂動組合ではない協同組合だ、

荻谷農校 貝 吹 記

質の改良に意を注がれたい。焼酎生成高、約参附石。尚将来は合成清酒、ウイスキー等の酒類製造免許も申請し、農村工業として大成を期し、郷土産業の発達に貢献すべく努力中であるから、村民各位の一層の御後援を希望しております。

一匹の虎がある時多数の蟻と戦つたところ、虎は初め蟻を馬鹿にしてた。多数の蟻は虎の鼻や目の穴などに入り、遂に虎は堪え切れず蟻に降参したという話がある。これは単なる一片の寓話に過ぎないが、この小話が人々に於てもどんなに共同一致の力が偉大なるものであるかということを知ることが物語つてゐる。ボタリと木の葉の上に落ちた一葉の雨が、他の一葉と一緒に降り、より大きな一滴となり、それ等が合して流れ、谷間の木の葉をくぐり川に入り、海に入る。而して天

熱と意氣で

一青年の手記

長い混乱から覚醒しつつある。わしは百姓の息子だ、何もわがらない。

青年団幹部諸兄よ、もう少し親切に扱つて貰いたい。熱をもつて導いて貰いたが、集會なんか出たい、しかし疲れた時もある用事のある時もある。こんな時にもう一息とゆうところ人間の弱さをなおして貰いたい。わしの意見はたどたどしくて聞いているのが嫌になるかもしれない。だがこれでも真実を話すに不足ではない。余り見下げるとわしの方でもそんな気になる。世の中のことを正しく判断する為に少しでも多くのことを知り度い。井戸の中の蛙は御免だ。よく講師を頼んで話をされる。こういう講師が通り一辺の講師師でちつとも真実味がない有難迷惑だ。出席までとつてと云い度くなる。わしの愚痴かもしれない。同志よ、お互に新日本建設に邁進しよう。と云う余曲折はあろうとも。

修養

飾る生活と磨く生活

天野勇

同じ人間が血で血を洗うような現実の世相に於て、そのうちには何とかなるだろう。と云うようなのんきなことは考えられない。爲めに教育も産業も政治も祖国再建に向つて懸命な努力が続けられて居る。然し一方人の心の悩みも、けがれも少しも減るところではなく、むしろその度を増して来ているかのようだ。

どうしても吾々は生くべき生き方について考へて見ねばならぬように思われる。まあ、吾々の生き方について大雑みに考えると、外から飾る生活と内側から磨き出して行く生活と二通りある。多くの人は外から飾る生活即ち、うわべを飾るといふことに非常な注意を向けて内側を磨いて行くといふことを忘れ易い傾きをもつて居る。

つて、その外側の容姿をつくらうことは忘れないが、心を磨くといふことはなると忘れ勝ちである。然しこの外側だけを問題にすることは御婦人の方ばかりではなく人間共通のものである。外を飾るといふことも内側から磨くといふことも、それぞれ値打のあることで、出来ることなら外から飾る曰暮しと内側から磨く曰暮しがピッタリ一枚になれば申分ないのだが、それはよいいなことではない。そこでどちらかを中心として行くといふことになれば、外を飾ることと胡虜化して行くこととするよりも内側から磨き出して行くといふ生活は、力強い深みを持つ尊い生活であることを知つて行き度い。

飾る生活とは、他の眼を相手に生きて行くことであり、外側だけを問題としての生活であり、利己的の生活

である。

磨く生活とは神を相手とし、仏を相手とし、生かざるゝ恵に感激して無

桜のつくり 火災誌

もう桜の蕾も大きくふくらみ、二三日もしたら見頃になるだろう。世人は桜の花を見ると浮れ出して馬鹿騒ぎを演ずるが全くその通りである。分らない。私は桜は美しいものと感じ何となく心は浮き立つては来るが酒を飲んで醜態を演ずる人は全く桜見物を毒するものと思われる。まあそんな事はさておき、桜について一寸説明して見よう。

幸田村には桜の種類はあまり多くはない。山桜、染井吉野、八重桜、彼岸桜位のものである。岡崎公園だとか、深溝学校とか、鈴木医院の桜、神野さんの桜も皆染井吉野と云う種類であつて俗人は吉野桜と云つてゐる。然し吉野山の桜はこの桜ではなくて皆山桜である。染井吉野は花を

限の力に燃える生活である。こゝに社会教育としての宗教教育の重要性を感ずるものである。

葉よりも早く出し、多数の花が一度に咲いて全く濃艶である。枝は四方に張りや、垂れれる意味であつて、花梗や葉柄に産毛がある。山桜は直立した様に枝は斜上し、花は葉より遅れて出る。葉の色は赤芽が多い。そして花は少なく何となく染井吉野より淋しい。花梗や葉柄には産毛がない。この山桜の赤芽が緑の松を背景として朝日に照りされた時は実に美しいものである。染井吉野は厚化粧した若者の感かするし、山桜は純情な美しい乙女の感かする。八重桜は里桜の変種であり、枝垂桜は彼岸桜の変種である。

桜は支那にもあるから日本特産とはいえないが西洋にはない。西洋には千エリーと云つて秋田縣に栽培している。桜んぼうの華である。何でも眺めて染しむばかりでなくそのものを研究して見ると面白いものである。

「郷土誌の研究」

について

志賀又郎

わが幸田村には、郷土誌としてまとめたものが遺憾ながら未だないので、公民館設置と広報発刊を記念に、郷土誌の研究調査を試み、ゆくゆく立派な郷土誌の編纂がして見たいと思ひます。

一 目的

(大体左の三様がある)

第一は「誇りの郷土誌」郷土のことを調べて、自慢にするのである。こんなお国自慢は、昔の人のやつたもので、現代人はこんな小さな量ではよくない。お里を自慢するお嫁さんが嫌われると同様に、お国自慢は世界各国人と交際する将来の人には禁物である。

第二は「知識の郷土誌」郷土の自然・史実・民間伝承等を調査研究して学術の基礎とし、郷土の教育・科

学・文化・政治・産業・経済等がこれから生れるようにする用意の学術とする最も進歩した近代的の考え方で、小学校・中学校も凡ての学術をこゝから出発するということとは郷土学の狙いである。

第三は「力を育てる郷土研究」青少年が郷土の研究調査をすることによつて、天地万有へ人へ凡てに向つて探究したいという願を展いて、百争万象を原書としての学術の研究に興味を起さしめる処に大きな力が主れてくる。即ち学校の社会科学の狙いもこゝに存すると思ふ。

二 着手
郷土研究の第一歩は、先ずとにかく資料を集めることが肝心である。郷土誌が文獻としてできあがることも貴いことではあ

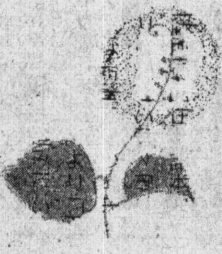
るが、それより一層貴いのは研究であるが故に、編纂員の気持でなしに、郷土学研究の一年生に入學したつもりで、一少事項を揃えて調査研究を続けて、以て有終の美果をおさめたいものである。

三 事項

- 1 地名史料
- 2 民政史料
- 3 生活史料
- 生活技術
- 言語芸術
- 心意現象
- 4 信仰史料
- 神社中心
- 寺院(教会)中心
- 土俗信仰
- 5 教化史料
- 6 姓氏家系史料
- 7 考古学史料
- 8 史蹟名勝天然記念物園
- 室に関する史料
- 9 人物伝史料
- 10 其の他

史料として第一に着手すべきものは地名であると思ふ。地名は不文の歴史で、文獻にも歴史にもない史料が其の名に遺つていふことがある。

漢字にはあて字が多いから漢字に頼られず、呼ぶ音で考察する。小字名は土地台帳から、俗名は伝承から書き載せて、呼ぶように仮名をつけるのです。



「編集後記」

伊藤所長山住眞壽本田 諸長より祝詞をいただき前途に大きな希望をもつと共に、責任ある編集により「愛される広報」に進みたいと思ひます。各方面から寄せられた原稿は一つ一つ誠心のこもつたものばかりでした。

題字「幸田」は村長さんの筆であります。

文芸関係の投稿も希望しております。三河に其の人ありと知られた俳句の山本四、藤江果、和歌の杉浦亮、中根健氏の御出馬も近いとは存じますがおなたの思ひ出の一つを詩に敢て是非御待た申し上げております。

本紙製作に際し、志賀又郎氏のつくられた大きな努力に深甚の謝意を表するものであります。
(編集室同人)